

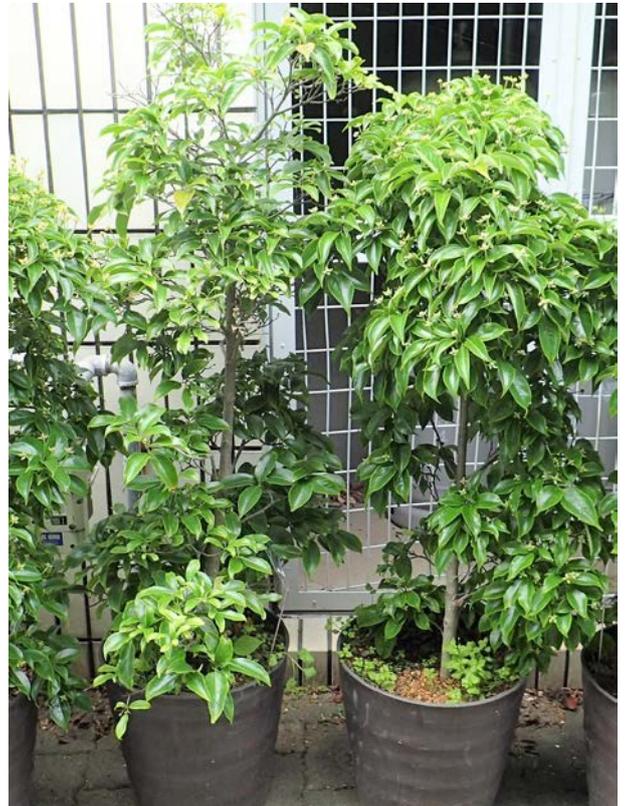
トキワヤマボウシ

ミズキ科・ミズキ属（常緑広葉樹）

特徴

日本のヤマボウシは落葉樹ですが、中国原産のトキワヤマボウシはその名の通り、年中葉が茂っている常緑樹です。

高さ3～15mほどになる常緑低木から高木でシンボルツリーとして人気があります。開花期は6月から11月頃、花びらに見える部分は「総苞片」という本来花を包む葉っぱのような部分に変化してできたもので、真ん中にある小さな花が集まってできた球状のものが本当の花です。秋ごろには、表面がブツブツしたボールのような独特な形の実をつけ、そのままでも食用になります。



場所

地植えでも、鉢植えでも育てられます。日当たりがよく、水はけの良い場所を好みます。半日陰でも育ちますが、日当たりが少ないと花つきが悪くなります。

用土

日当たりがよく、水はけの良い場所を好みます。環境にもよりますがあまり手をかけずとも自然と大きくなる木です。

水やり

用土が乾いたら水やりをします。

肥料

1月から2月頃に肥料を適量与えます。

植え付け

3月から5月に行います。地面に苗の2倍ほどの植え穴を掘り、掘りあげた土に地面に苗木の根鉢より2倍ほどの植え穴を掘り、掘りあげた土に腐葉土、肥料などを混ぜ合わせます。混ぜ合わせた土を植え穴の3分の1程戻し、そこに根鉢を少しくずした苗木を置き、残りの土を戻して埋めます。植え穴と同じ大きさに土を高く盛り、苗木の周りが水が溜まるぐらいの水鉢を作り、水を入れます。植木を左右に少しゆらしながら水を注ぐと土中の空気が抜けます。水が引いたら支柱をたてます。

剪定

基本的に樹形が整った状態で生長するため、剪定の必要はありません。剪定する場合は12月から2月頃に行い、花芽を切り落とさないように、枝の分岐している場所のすぐ上で切ります。剪定した枝の切り口には、病気の予防に保護材を塗っておきます。大きな枝を剪定した場合はしばらくは花つきが悪くなる場合があります。